

(3) 展開

	学習活動	・教師の働きかけ	☆評価
		T1	T2
3 導入	1 準備体操をする。	・準備体操が正しくできているかどうかを確認し、必要に応じて補助する。	・日直児童と共に、前で準備体操を師範する。
展開 37分	2 ドリルゲームⅠを行う。 ・「連続キャッチボール」	・支援が必要な児童を「ペットボトルスロー」コーナーに集めて、投げる際や捕る際のポイントを押さえながら個別に指導する。 ・今日の学習のめあてを提示する。	・ ・投げる腕とは反対の足を前に出すこと、ボールの正面に移動することなどを中心に助言、賞賛する。
	3 本時のめあてを知り、ドリルゲームⅡを行う。	どこをねらってうてばいいのかを考えながらゲームをしよう。	
	4 めあてについて話し合い、出てきた意見を生かして作戦を立て練習する。	・活動前にどこをねらって打てばいいのかを確認し、どうやったらそこをねらえるかを見つけるよう声かけをする。 ・活動中は、バッティングの際の「横を向いた構え」「掌」「スペースのねらい方」の3点を重点的に観察し、賞賛したり助言したりする。 ・ねらい通りに打つためのコツを全体で確認し、それをこの後の作戦会議や練習、ゲームに活かすように声かけする。	・支援が必要な児童を集めて、「パターで打つ」「ボールを最後まで見る」といった打つ際のポイントを押さえながら指導する。 ・チーム毎の作戦会議がスムーズに行えるよう助言する。
	5 ゲームをする。	積極的に教え合う姿を称賛すると同時に、思うように教え合いができていないグループに入り、教え合うための声かけの仕方を具体的に示す。 ☆チームで互いに声をかけ、教え合いながら練習しようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・安全、マナー等を確認し、必要に応じて声をかける。 ・ねらい通りの打撃を中心とした技能、声かけや応援などの態度で望ましい姿を称賛していく。 ☆空いたスペースをねらってボールを打つことができる。【技能】	
整理 5分	4 後片付けをして、本時の学習を振り返り次時の学習内容を知る。	・全体で本時のめあてに対する感想を発表させて本時のまとめをすると共に、次時の学習内容を知らせる。	・児童の発表で出てこなかったよかったところ（ねらい達成に向け、工夫したり協力したりしていたチームや児童）を紹介する。

7 成果と課題（○…成果、△…課題）

○子どもたちの実態に応じた用具やルールを工夫することで、ほとんどの児童がルールを理解してゲームに楽しく参加できた。

○技能の系統を確認したことで、この学習における指導内容が明確となった。ミニゲーム（ドリルゲーム・タスクゲーム）を用いて技能の向上を図ったことは効果があった。

○話し合いを活性化するために具体的な声かけを事前に考えさせ、掲示したことは効果があった。

○「私たちの体育」については、オリエンテーションで活用し、基本となるルール、作戦について参考にすることができた。本書には、図説があるために児童にとってわかりやすく大変参考となった。

△話し合いの内容について、3年生ではどこまで身につけるのかが明確でなかった。態度面、思考面についても系統がはっきりすることが必要だと感じた。

△「投げる」技能は個人差が大きく本単元では必要となかったが、上の学年のことを考えて練習を取り入れた。しかしながら、必然性がないものを取り入れる必要はないと感じた。

